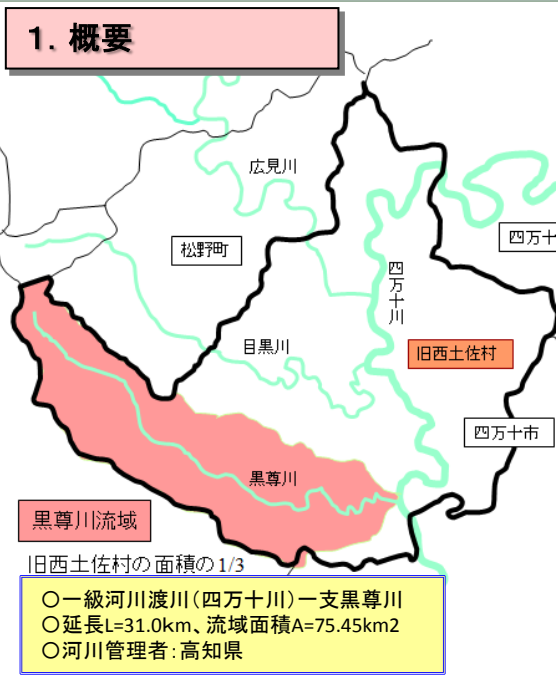


黒尊川流域における共生モデル地区協定の再々締結について(1)【議題1】

1. 概要



【設立(平成17年8月20日)当時】

◇構成:黒尊川流域の住民

- ・黒尊地区
- ・奥屋上内地区
- ・奥屋下内地区
- ・玖木地区
- ・口屋内地区

5地区
(人口):発足当時
・367人(163世帯)
(男性177人、女性190人)

【現状】

- ・奥屋上内地区
- ・奥屋下内地区
- ・玖木地区
- ・口屋内地区

4地区
(人口):平成27年12月31日時点
・266人(142世帯)
(男性125人、女性141人)

2. 経緯

○平成17年 8月:『しまんと黒尊むら』の立ち上げ:黒尊川流域住民

↓

○平成18年10月:四万十川条例改正
第15条共生モデル地区(※)の導入

↓

○平成18年11月:『黒尊川流域の人と自然が共生する地域づくり協定』
しまんと黒尊むら・四万十市・高知県の3者協定(県内初)

↓

『黒尊川流域の人と自然が共生する共同宣言』
しまんと黒尊むら・四万十市・高知県・四国森林管理局

◇平成20年6月:平成の名水百選(環境省)に黒尊川が選定
◇平成21年2月:文化庁の重要文化的景観に選定(下流域の生業と流通・往来)

↓

○平成24年 7月:『第2期協定締結』(5ヶ年)⇒5つの目標とする姿及び取組を定める
(別添参考資料①参照)

↓

○平成27年12月:環境省より『水・土壌環境保全活動功労者表彰』受賞

↓

○平成29年2月:『四万十くろそん会議』にて第2期活動総括と第3期協定に向けた協議
(別紙参照)



3. 活動内容

- 5つのグループ(地域活性化・山と川・歴史と文化・シカ肉・国道草刈)**
- ① 四万十くろそん会議の開催(年4回程度):地域の活動を行政とともに協議
 - ② 黒尊むらまつり(※)の開催
 - ③ 県環境研究センターと協働で水質調査(年4回、6箇所:清流度・水生生物等)
 - ④ くろそん手帖の普及 例:小学生以上を対象とした川の生き物調査(四万十市と共催)
 - ⑤ 水辺林の間伐(※)、国道441号草刈り
 - ⑥ 川への歩道整備や草刈り(※)
 - ⑦ 「黒尊むら通信」の発行
 - ⑧ 来訪者への手作り看板の設置
 - ⑨ 地区の伝説「お菊の滝伝説」で紙芝居を作成
 - ⑩ シカ肉の活用 など

【凡例】

赤平:水環境保全項目
(※):清流保全パートナーズ事業
(高知食糧株)の助成金を活用



- (会議構成員)
- ・しまんと黒尊むら
 - ・四国森林管理局
 - ・四万十川森林ふれあい推進センター
 - ・四万十市森林管理署
 - ・高知県地域観光課
 - ・高知県計画推進課
 - ・高知県幅多土木事務所
 - ・高知県環境共生課
 - ・四万十市役所、西土佐総合支所



(※)四万十川流域内で優れた水質や動植物の多様性、良好な景観を有し、人と自然が共生している地域

黒尊川流域における共生モデル地区協定の再々締結について(2)

⑤国道441号草刈り状況



⑥川への歩道整備・草刈り状況



⑧来訪者への手作り看板設置状況



【参考】黒尊川紅葉状況



【参考】水・土壌環境保全功労者表彰伝達状況



4. 共生モデル地区協定の再々締結について

※『しまんと黒尊むら』では、第二期協定期間(～平成29年7月)満了後、市及び県との協定の再々締結を望んでいる
(平成29年2月16日四万十くろそん会議で協議)

※ただし、地区の高齢化等の課題があり、協定内容については来年度の四万十くろそん会議で協議することとする
(同上)